

中期経営計画（2017～2019）

～ 先進の道路サービスへ ～

2017年 4月

 阪神高速道路株式会社

目次

はじめに	1
中期経営計画の位置付け	2
1. 最高の安全と安心を提供する阪神高速	3
① 大規模更新・大規模修繕の実施	
② 維持管理の高度化・効率化	
③ 交通安全対策の実施	
④ 災害発生時の機能維持	
2. もっと便利で快適なドライブライフを実現する阪神高速	7
① ミッシングリンクの整備	
② 利用しやすい料金体系	
③ 渋滞対策の推進	
④ 走行快適性の向上	
⑤ ほっとできるパーキングサービス	
3. 世界水準の卓越した都市高速道路技術で発展する阪神高速	13
① 都市高速道路技術の発展・蓄積	
② 交通運用技術の開発	
③ 技術力・ノウハウの持続的なイノベーション	
4. お客さまや社会に満足をお届けする多彩なビジネスを展開する阪神高速	16
① 高速道路事業で培った技術・ノウハウを活用した事業展開	
② 新たな事業への積極的展開	
5. 関西の発展に貢献し、地域・社会から愛され信頼される阪神高速	18
① 道路事業の実施による経済社会活動の活性化	
② 地球環境保全への配慮	
③ 地域・社会との交流	
6. 経営基盤を確立し、グループ社員がやりがいを実感できる阪神高速	21
① お客さまをはじめとするステークホルダーの声を反映した経営	
② 経営基盤の強化	
③ 職場環境づくり	
④ 人材育成	
数値目標	24

はじめに

阪神高速道路は、約260kmのネットワークを有する関西都市圏の大動脈として、関西のくらしと経済の発展を支える重要な役割を果たしています。その建設・管理を担う弊社は、「先進の道路サービスへ」を阪神高速グループの理念として、安全・安心・快適に阪神高速道路をご利用いただけるよう取り組んでまいりました。

さて、近畿圏では、「高速道路を賢く使う取組」がスタートします。その具体的な内容に関しては、まず阪神高速道路の料金について、公平、シンプルでシームレスな料金体系という新たな料金制度を2017年6月から導入いたします。

ミッシングリンクの解消は、地域の持続的発展に必要な不可欠であるとともに、高速道路を賢く使う取組の前提条件でもあります。進行中の大和川線等の建設に加え、淀川左岸線延伸部や大阪湾岸道路西伸部の整備にも取り組んでまいります。

老朽化した高速道路構造物のリニューアルも、今後事業が本格化いたします。その実施にあたっては、お客さまへの影響を最小限に止めるため、新技術や新工法を開発・採用するなど技術力を結集して取り組んでまいります。

お客さま満足向上の取組みも重要な経営課題です。高速道路を賢く使う取組とお客さま満足向上の取組みは、「先進の道路サービスへ」の具現化に向けた車の両輪と位置付けられます。一層の経営効率化やコスト縮減を進め、その成果も活用しつつ、お客さまが「安全・安心・快適」を実感され、ご満足頂けるよう取り組んでまいります。

2016年4月、会社創立から10年が経過し新たなステージを迎えた弊社は、阪神高速グループの持続発展可能な組織としての将来の方向付けを明らかにする「阪神高速グループビジョン2030」を策定・公表いたしました。

今回策定する新たな中期経営計画は、ビジョン実現に向けてより具体化された計画と位置付けられます。その中では、笹子トンネル事故や熊本地震での被災等を踏まえた社会的要請の高まりを受け、安全・安心の提供に関する取組みを最優先課題に掲げております。また、高速道路を賢く使う取組に関連するミッシングリンクの解消、構造物のリニューアル、お客さま満足向上の取組み等についても具体的に記載しております。

今後3年間、弊社は、この計画に定めた取組みを着実に実行することにより、安全・安心・快適な道路サービスをお客さまにお届けし、これまで以上にご満足頂けるよう、総力を挙げて邁進してまいります。

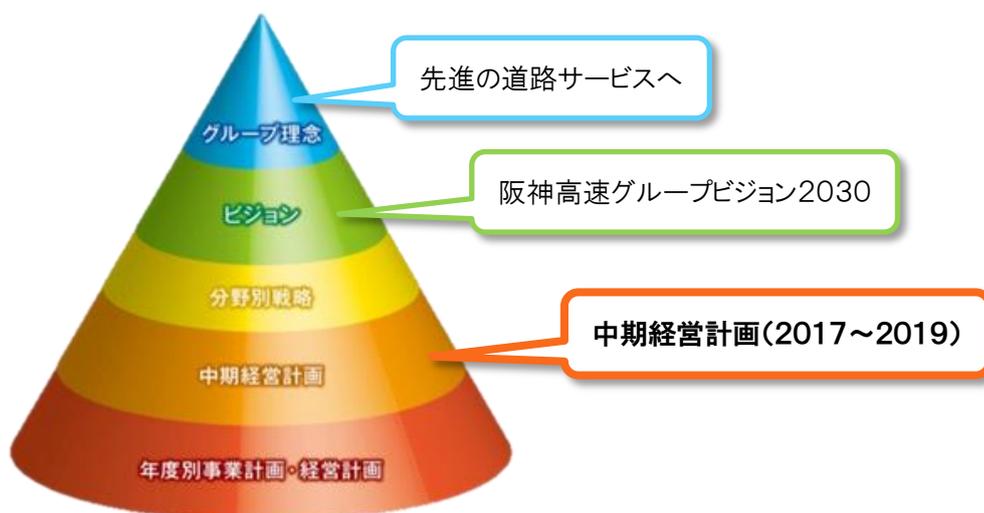


阪神高速道路株式会社
代表取締役社長

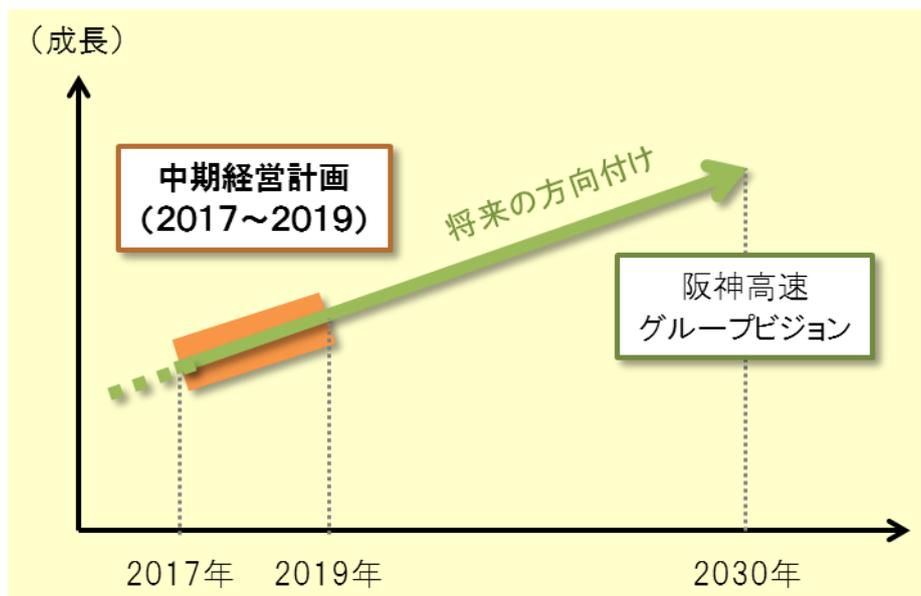
幸 和範

中期経営計画の位置付け

○『中期経営計画』は、「阪神高速グループ理念：先進の道路サービスへ」と「阪神高速グループビジョン2030」（以下「ビジョン2030」という。）（2016年4月）の実現に向けて、より具体化するための計画です。



○ビジョン2030では、2030年にグループのめざす姿として6つのありたい姿を掲げていますが、中期経営計画(2017~2019)ではこの6つのありたい姿を柱として、今後3年間で取り組む重点施策や数値目標を取りまとめています。本中期経営計画は、ビジョン2030の策定後取りまとめた初めての計画であり、ビジョン2030の実現に向けたファースト・ステップとして積極的に取り組んでいきます。



1. 最高の安全と安心を提供する阪神高速

お客さまに安全と安心を提供するために、大規模更新・大規模修繕や日常管理を確実に実施し、阪神高速道路を健全で走りやすい状態に管理します。

① 大規模更新・大規模修繕の実施

(1)大規模更新

○疲労や腐食耐久性に優れた材料・構造の活用や橋の架け替えで必要となる急速施工法を開発し、工事の促進を図ります。

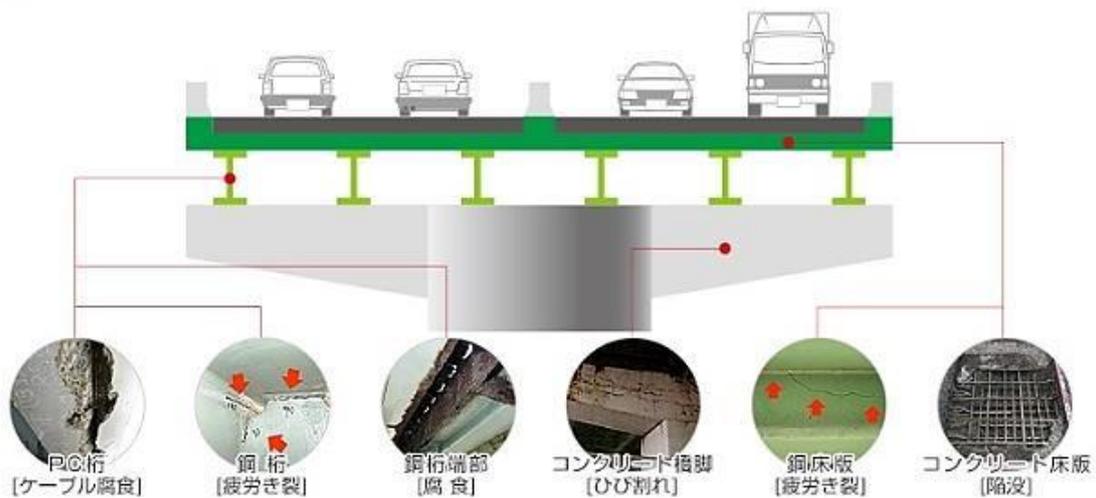


大規模更新の対象箇所

対象箇所	対策工種	計画期間内の取組み
11号池田線大豊橋付近	橋の架け替え	現地調査に着手
13号東大阪線法円坂付近	橋の架け替え	現地調査に着手
14号松原線喜連瓜破付近	橋の架け替え	現地調査～構造・施工法検討 ～事業計画策定
15号堺線湊町付近	鋼製フーチングの 長寿命化改良	工事着手
3号神戸線京橋付近	橋の架け替え	構造・施工法検討～事業計画策定
3号神戸線湊川付近	橋の架け替え 及び橋脚の増設	工事着手

(2)大規模修繕

○お客さまに安全・安心を提供する大規模修繕の着実な推進を図るため、構造物の劣化状況にかかる詳細調査を完了させ、対策工法の高度化を図ります。



大規模修繕の対象部位

対象部位	計画期間内の取組み
PC桁	工事推進
鋼桁	調査完了、疲労対策工事に着手
鋼桁端部	桁端部改良に着手
コンクリート橋脚(ASR ¹)	詳細調査、対策工事に着手
鋼床版	SFRC ² による補強工事を推進
コンクリート床版	既設床版の疲労損傷状態調査を完了 床版取替工事に着手

¹ ASR:アルカリ骨材反応

² SFRC:鋼繊維補強コンクリート

② 維持管理の高度化・効率化

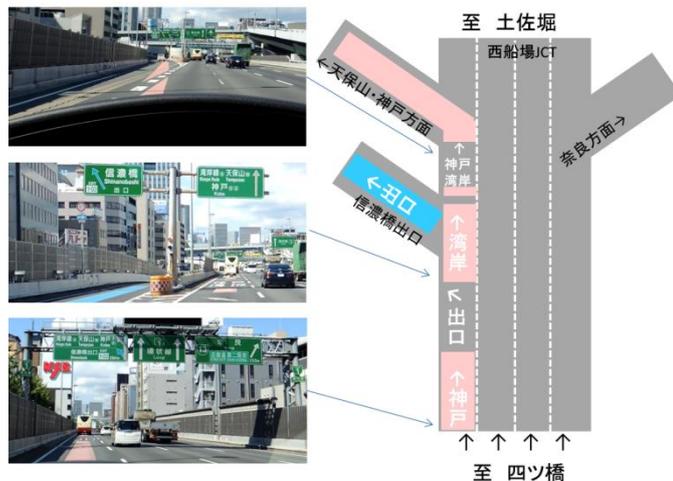
- 阪神高速道路を健全な状態に管理し、お客さまに安心してご利用いただけるよう、日頃から定期的な点検を実施し、道路の状態を把握するとともに、細やかな補修・補強を行います。
- お客さまの快適なドライブを実現するため、路面状態の適切な維持に向けて、膨大な計測データ(舗装のひび割れ、平坦性、わだち掘れ等)から補修が必要な箇所を自動的に検出する技術を開発し、計画的かつタイムリーな舗装補修を実施します。
- より効率的で効果的な維持管理を実現するため、維持管理業務に関する保全関係データ(構造物データ・損傷データ・補修データ等)と交通関連データ(交通量・渋滞状況等)の組み合わせ利用やGIS³上での相互参照が可能な仕組みを構築します。
- お客さまに快適なドライブを実現する適切な情報や走行環境を提供するため、高速道路設備(情報板、ETC、照明灯)の不具合時間の短縮を図ります。

③ 交通安全対策の実施

項目	数値目標(2019年度)
交通事故件数	300件削減(※)

※ 2016年度比 (参考 2016年度交通事故件数:6,006件)

- 1号環状線等で多発する交通事故の削減に向け、合流部や車線変更の集中区間においてスムーズな合流をうながす車線運用への変更や、カラー舗装及び案内標識の改善によるわかりやすい道路案内等の交通安全対策を実施します。



わかりやすい道路案内の事例

³ GIS: 地理情報システム

- 逆走や誤進入を未然に防止するため、ナビゲーション事業者との連携やICT⁴を活用した対策を推進するとともに、一般道路から高速道路への案内をわかりやすくするために、一般道路における道路案内の改善を図ります。



出口部での逆走・誤進入対策



合流部での逆走対策

- 事故や故障等への迅速な対応を行うため、巡回車に新たな機材を搭載するとともに、ICTを活用した外部機関(消防等)との映像共有を図ります。

④ 災害発生時の機能維持

- 熊本地震の道路被災事例を踏まえ、速やかな道路機能の回復が可能な道路ネットワークをお客さまに提供できるよう、ロッキング橋脚を有する橋梁等の耐震補強を推進します。
- 地震・津波による大規模災害時にも緊急交通路機能を確保するために、新たな防災拠点の整備と災害対策本部の機能強化、道路管理施設や電気通信施設の浸水対策、応急復旧資材の備蓄等の道路啓開機動力の強化、交通管制システムの相互バックアップ等を実施します。
- 災害発生時のお客さまの安全確保のため継続的な道路交通情報や、より迅速かつ正確な情報提供を行うため、交通管制システムの更新に合わせバックアップ機能の整備、提供情報の精度向上等の改良を行います。
また、災害における阪神高速道路に関する情報をお客さまのモバイル端末に直接配信します。

⁴ ICT: 情報通信技術

2. もっと便利で快適な

ドライブライフを実現する阪神高速

もっと便利で快適な阪神高速道路が身近にある豊かで楽しい生活スタイル「ドライブライフ」の実現をめざし、お客さまのニーズに応じた道路サービスを追求します。

① ミッシングリンクの整備

○ミッシングリンクの解消に向けたネットワーク整備に積極的に取り組みます。

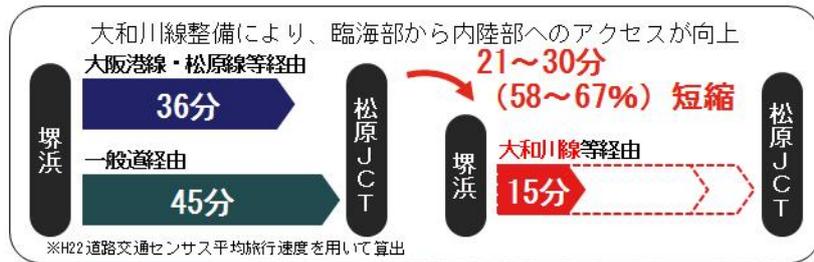


阪神高速ネットワークとミッシングリンク

路線名	区間	延長	期間内の取組み
大和川線	鉄砲～三宅西	7.7km	2019年度完成
西船場ジャンクション			2019年度完成
淀川左岸線(2期)	海老江～豊崎	4.4km	共同事業者(大阪市)と調整しながら事業を促進していきます
淀川左岸線延伸部	豊崎～門真 (※)	8.7km (※)	共同事業者(近畿地方整備局・NEXCO西日本)と調整しながら事業を促進していきます
大阪湾岸道路西伸部	六甲アイランド北 ～駒栄	14.5km	共同事業者(近畿地方整備局)と調整しながら事業を促進していきます

※ 淀川左岸線延伸部の区間及び延長には、NEXCO西日本事業区間を含む

2. もっと便利で快適なドライブライフを実現する阪神高速



大和川線開通時の整備効果



西船場ジャンクションの整備により、16号大阪港線東行と1号環状線北行が接続



1号環状線南部分のう回が不要
・走行距離(約5.5km)の短縮
・走行時間(約5分※)の短縮

※ 規制速度で走行の場合

西船場ジャンクション開通時の整備効果

② 利用しやすい料金体系

項目	数値目標(2019年度)
企画割引実施日数	1.5倍(60日)(※)

※ 2016年度比

○2017年6月より導入する新たな料金体系に関し、広報等による周知・定着を図りつつ周辺道路を含む交通量等の影響について調査・分析等を実施していきます。

○京都線については、関係機関への円滑な移管に向け、必要な対応を行います。

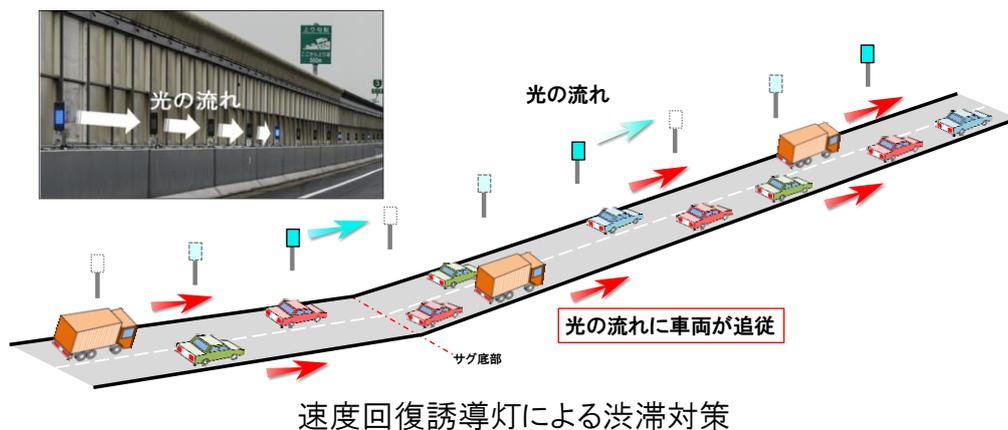
○お客さま満足のより一層の向上に向け、お客さまにもっと阪神高速をご利用いただくための企画割引の拡充を行います。

③ 渋滞対策の推進

項目	数値目標(2019年度)
本線渋滞損失時間	865万台・時／年以下

(参考 2016年度本線渋滞損失時間:1,001万台・時／年)

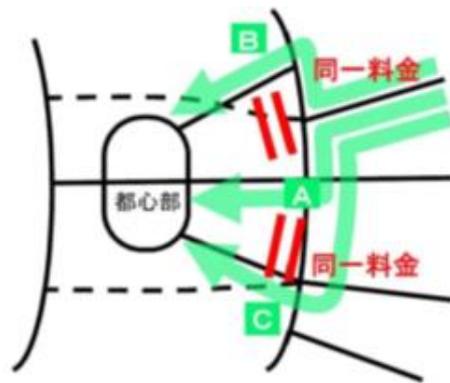
○新たなセンシング技術⁵を取り入れ、渋滞要因を的確に把握し、車両の円滑な合流をうながすレーンマーク変更や速度回復誘導灯の導入等による交通制御を実施し、ボトルネック⁶での交通流の円滑化を図ります。



⁵ センシング技術:センサー(感知器)等を使用して、さまざまな情報を計測・数値化する技術

⁶ ボトルネック:ピンの首部分が細くなっているように合流部等で交通容量が減少し、交通流の妨げとなっている箇所

○新たな料金では、流入交通の分散化を図る観点から、大阪及び神戸都心部への流入に関し、経路によらず起終点間の最短距離を基本とした料金設定としており、適切な経路を選択していただくため、情報提供のより一層の充実を図ります。



都心への流入交通の分散イメージ

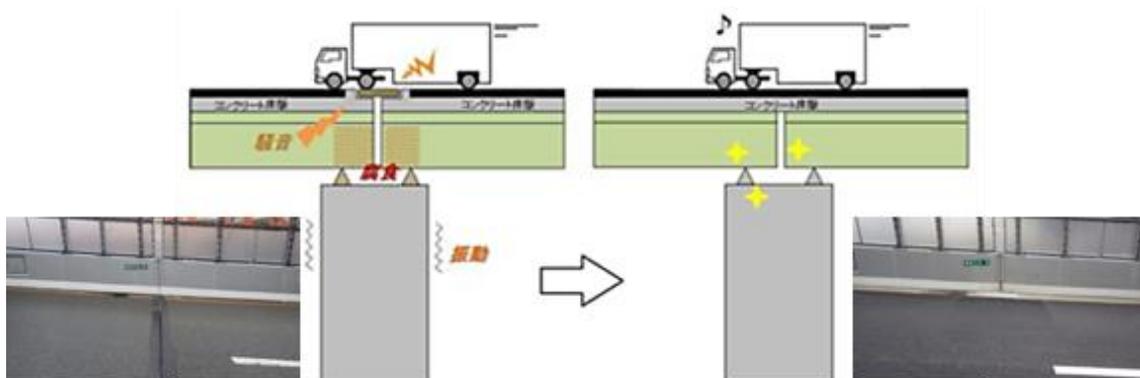
○規制工事による渋滞を削減するため、規制工事のさらなる集約と工事渋滞遅れ時間を指標とした工事計画手法を導入します。

④ 走行快適性の向上

項目	数値目標(2019年度)
ジョイントレス実施率	10%以上(※)
ETC利用率	95%以上

※ ジョイントレス化対象(100m区間内のジョイント数が5以上ある箇所)全体に対する実施率

○お客さまが安全でかつ安心して快適な走行を行える状態を継続的に確保するため、短区間ジョイントの解消(ジョイントレス)に向けた取組みを行います。



短区間ジョイントの解消

- 他の高速道路との違いを意識しないシームレスな情報提供を行うため、情報提供内容・情報提供方法・提供するエリア等について、他の道路管理者と連携して検討を進めます。
- 高齢社会にも対応したわかりやすい情報提供を行うため、道路情報板のマルチカラー化を図ります。



情報板のマルチカラー化

- 距離料金の導入により不要となる本線料金所を撤去し、安全性の向上と走行性の改善を図ります。



本線料金所の撤去事例(3号神戸線尼崎)

- 広域の渋滞情報や事故多発地点等、交通安全情報の提供が可能となるETC2.0の普及(転換)促進に努めます。
さらに、より調べやすい料金検索システムへの改修や外国語版ウェブサイトの開設等を実施します。
- 料金所での正確な料金収受やお客さま対応の向上に努めるとともに、多様なお客さまに迅速かつ正確・丁寧にご案内できるお客さまセンターの対応スキルの向上を図ります。

⑤ ほっとできるパーキングサービス

○お立ち寄りいただくすべてのお客さまに「ほっ」としていただくために、お客さまの潜在的なニーズを把握し、継続的な施設改善や接客マナーの向上等を図り、魅力あるPAをめざします。

また、レストランでは特色のあるメニューのご提供や調度品の入れ替えを実施するとともに、尼崎ミニPAにおいてはコンビニ自販機を設置するなど、お食事メニューを充実し、より多くのお客さまにご利用いただけるよう、お客さまサービスの向上に努めます。

○ネットワークの拡充やお客さまのニーズを考慮したお客さまの利便性向上のため、撤去した本線料金所の跡地を利用して、ミニPAを整備します。

○お客さまに快適なドライブを提供するため、沿道指定施設を阪神高速道路のPAのようにご利用いただく路外パーキングサービスについては、社会実験で得られた知見を総括するとともにお客さまのニーズの高い路線において、実施箇所の増設に向けた取組みを推進します。



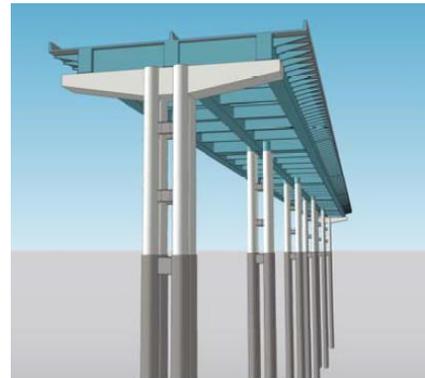
3. 世界水準の卓越した

都市高速道路技術で発展する阪神高速

卓越した都市高速道路技術のイノベーションに挑戦し、世界水準の技術力を発展・蓄積することにより、高品質かつ効率的に高速道路を建設・管理します。

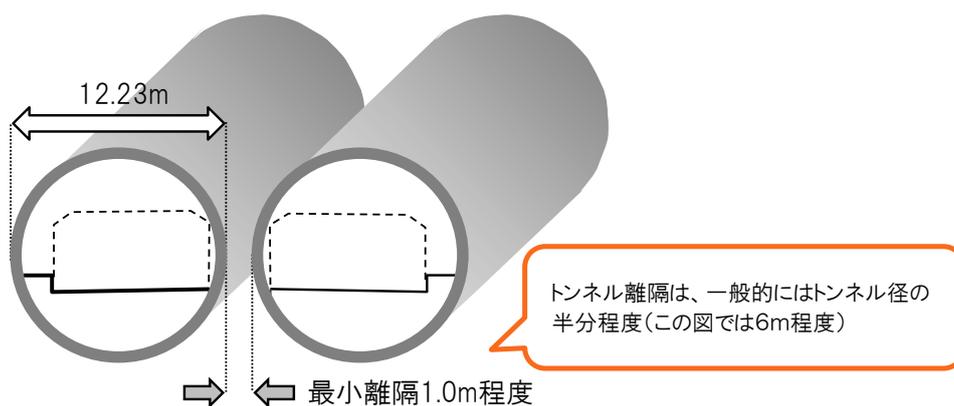
① 都市高速道路技術の発展・蓄積

- 耐震性能や大規模地震後の復旧性の高い鋼管集成橋脚⁷の適用構造を拡大すべく、杭基礎一体型のフーチングレス構造⁸や、多径間連続高架橋⁹への適用に向けた開発を継続します。



杭基礎一体型鋼管集成橋脚
(多径間連続高架橋への適用例)

- 超近接シールドトンネル等のトンネル技術、橋梁の合理的な耐震対策や既設構造物との合理的な一体構造等の知見を踏まえて、新規路線の建設を展開します。



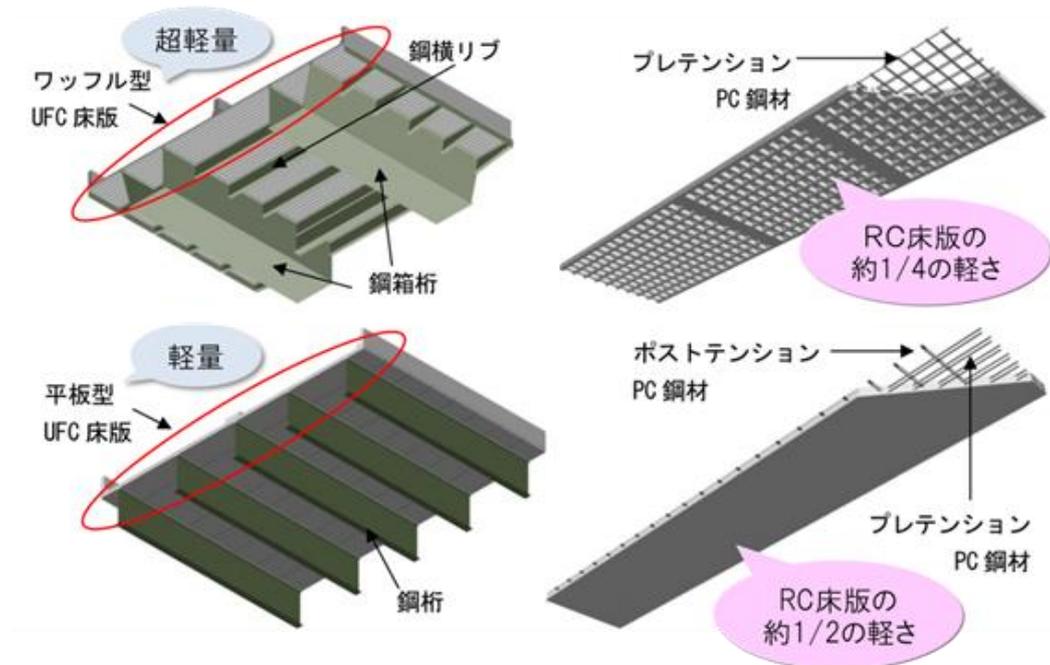
超近接シールドトンネル技術

⁷ 鋼管集成橋脚: 複数本の鋼管柱を横つなぎ材で連結して橋脚とした構造

⁸ フーチングレス構造: 橋等の構造物の自重による鉛直方向の荷重や、地震や風により構造物に加わる水平方向の荷重を地盤に伝える地中部分にある土台(フーチング)を必要としない構造

⁹ 多径間連続高架橋: 一続きの橋桁で複数の支間(橋脚と橋脚との間)を渡す高架構造物

○軽量かつ耐久性の高いUFC床版¹⁰について、実際の橋梁での試験施工を通して、施工面の課題解決を図り、新設及び更新の適用構造として実用化をめざします。



2種類のUFC床版

○工事騒音による高速道路周辺のお客さまへの影響を軽減することを目的に、伸縮装置低騒音切断工法(SJS工法¹¹)のさらなる改良や、IH式鋼床版舗装撤去工法¹²の本格運用に向けた検討を継続して実施します。



伸縮装置低騒音切断工法(SJS工法)



IH式鋼床版舗装撤去工法

¹⁰ UFC床版: 超高強度繊維補強コンクリート床版

¹¹ SJS工法(サイレンス・ジョイント・スライス工法): 伸縮装置を特殊ワイヤーソーにより一括切断し、撤去する工法

¹² IH式鋼床版舗装撤去工法: 電磁誘導加熱技術(IH)によって鋼床版を発熱させ、舗装下面の接着層を軟化させることで舗装をはぎ取りやすくする工法

② 交通運用技術の開発

- 自動運転技術の発展に貢献するため、デジタル地図事業者やナビゲーション事業者と連携し、自動走行システムの構築に不可欠なデジタル地図やナビゲーション技術の高度化に寄与します。
- すべてのお客さまが走行するルートに関する情報を走行位置に応じて取得できるよう、モバイル機器への情報提供の仕組みを検討し交通管制システムを改修します。

③ 技術力・ノウハウの持続的なイノベーション

- 大学との連携協定、共同研究講座等の研究の枠組みの活用や、民間のノウハウ・技術力の柔軟な取り込み(コミュニケーション型共同研究)を通して、産官学が連携した技術開発を進めます。
- 特許等知的財産権に係る社内外環境の現状分析を実施し、他の高速道路会社や関係機関、学識者、民間企業等とも連携し、現場に密着した市場性のある実用的な知的財産を取得します。
- AI¹³やロボット技術等、最先端の技術を高速道路の建設や維持管理等の高度化に活用するための技術開発を推進します。
- 都市高速道路の建設・管理・運営に関する技術・ノウハウについて、今後の事業展開等を見据え、阪神高速グループ内に蓄積すべき分野についてインハウス化し、企業競争力を高めます。
- 国際社会での日本のプレゼンスや阪神高速のブランド力をより向上させるため、JICA¹⁴等を通じた技術者の海外派遣や技術交流を積極的に実施します。また、海外事業で積み上げられた成果(人材・技術・ノウハウ)を高速道路事業にフィードバックし活用するリバース・イノベーションを推進します。

¹³ AI:人工知能

¹⁴ JICA:国際協力機構

4. お客様や社会に満足をお届けする 多彩なビジネスを展開する阪神高速

お客様や社会のニーズに応じて、阪神高速グループの技術・ノウハウ等の強みを活かした事業や新たなビジネス等、多彩な関連事業を積極的に展開し、収益の向上を図ります。

項目	数値目標(2019年度)
関連事業の売上高(連結)	55億円以上
関連事業の営業利益(連結)	8億円以上

(参考 2015年度売上高(連結):52.3億円、営業利益(連結):8.0億円)

① 高速道路事業で培った技術・ノウハウを活用した事業展開

○大阪港咲洲・夢咲トンネルや第二阪奈有料道路の管理で行っている道路マネジメント事業について、これまでのノウハウを活かすとともに、先進の道路サービスを追求し、安全・安心・快適の向上に寄与していきます。



(大阪港咲洲・夢咲トンネル)



(第二阪奈有料道路)

道路マネジメント事業の実施箇所

○京阪神エリアの道路等において、日常・定期点検、維持補修技術の活用を拡げつつ、長寿命化計画の策定、更新事業の計画、設計、積算、工事監理等の総合的なコンサルティング事業を展開します。

○少子高齢化に対応したまちづくりや多発する激甚災害への対応等、公共事業への期待に応えるため、これまで培った公共事業用地取得のノウハウを次世代に承継するとともに、人材を活用して公共事業者を支援することで、事業効果の早期発現を通して関西のまちづくりに貢献します。

○従来のODA¹⁵コンサルティング業務を進めるとともに、新たなビジネス構築を目的として、当社と技術協力協定を締結している国外の道路管理組織等と協働で現地での事業を展開します。



モロッコ国への点検技術移転

② 新たな事業への積極的展開

○駐車場事業について、利用していないトンネル上部等の道路区域の有効活用を図るなど新規案件の占用入札について積極的な参画を図り、事業の規模拡大と収益性の向上を推進します。



駐車場事業

○不動産事業について、引き続き保有資産の有効な活用を図るとともに、より収益性の高い事業への転換をめざします。



不動産事業

○お客様や社会のニーズをとらえた新たな事業の創出を図ります。

¹⁵ ODA：政府開発援助

5. 関西の発展に貢献し、

地域・社会から愛され信頼される阪神高速

関西とともに発展し、美しく豊かで住みやすい関西に貢献するため、企業活動を通じて地域の活性化、環境保全等に取り組みます。

① 道路事業の実施による経済社会活動の活性化

- ミッシングリンクの解消に向け大和川線(鉄砲～三宅西)及び西船場ジャンクションを完成させ、道路ネットワークの冗長性(リダンタンシー)を確保します。さらに、ネットワークをより有効に活用できるジャンクションの追加等、ネットワーク機能の強化のあり方について検討します。
- 南海トラフ巨大地震等を想定した総合防災訓練をはじめ、初動対応訓練等種々の防災訓練を継続的に実施する中でBCP¹⁶を適宜改定するとともに、関係機関との連携を図ることで災害対応力の強化を進めます。

② 地球環境保全への配慮

項目	数値目標(2019年度)
道路管理に起因するCO ₂ 排出量	3%削減(※)

※ 2016年度比、道路管理の延長あたり

- 環境ロードプライシングの認知度をさらに高めるため、リーフレットや横断幕等の広報展開を実施します。また、国土交通省とも連携し、環境ロードプライシング利用促進に向けて交通需要キャンペーン(毎年2月実施)での広報や国道43号に立て看板を設置するなど、国道43号から5号湾岸線への大型車誘導を図り、沿道大気環境の改善に努めます。



環境ロードプライシング

¹⁶ BCP:事業継続計画

○更新時における省電力機器の採用・導入や省燃費車両の採用・導入等により、使用エネルギー・温室効果ガス排出量を削減し、地球温暖化防止・低炭素社会の実現に貢献します。

また、建設リサイクルやグリーン調達については引き続き高い比率で実施し、使用済み横断幕のリサイクルを継続して実施するなど、事業活動により使用する資源や発生する廃棄物の抑制・再活用を進め、循環型社会の形成に貢献します。

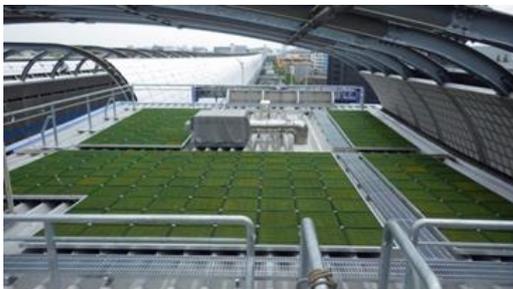


省電力機器の導入(LED道路照明)



横断幕のリサイクル

○料金所の屋上緑化を推進するとともに、環境施設帯等の緑化空間について、良好な状態を確保するために必要となる調査・検討を実施します。



料金所の屋上緑化

③ 地域・社会との交流

○阪神高速道路の構造物が都市の観光資源となり得る可能性を踏まえ、修景整備のニーズや効果を把握・分析し、社会に貢献する施策等を検討します。また、地方公共団体等が阪神高速道路に期待する事柄や要望等を把握し、地域と一体となった景観形成の実現に取り組みます。



ライトアップ



橋脚アートペインティング

○都市部周辺に設置される新設路線の換気所について、周辺環境に調和した景観デザインとなるよう、形状・色調・材料等を考慮した設計を進めます。

○保有する人的・物的資源やノウハウを活かして、「安全・安心」「人づくり」「地域・社会の活性化」「環境」を重点に社会貢献活動を推進します。



交通安全啓発活動



現場見学会



震災資料保管庫の公開



植樹活動

6. 経営基盤を確立し、

グループ社員がやりがいを実感できる阪神高速

これからもお客さまの満足を実現し、関西のくらしや経済の発展に貢献し続けるため、経営基盤を強化するとともに、社員がやりがいを実感できる職場環境づくりを推進します。

① お客さまをはじめとするステークホルダーの声を反映した経営

項目	数値目標(2019年度)
お客さま満足度(5段階評価)	3.7点以上

○お客さまの満足の向上に関する取組みを取りまとめた計画を策定し実施するとともに、お客さまがさらに「安全・安心・快適」を実感され満足していただけるよう、取組みの見直しや追加等を継続的に行っていきます。

○地域・社会の持続的発展に貢献し、地域や社会とともに成長するため、CSRマネジメントを推進します。その一環として、CSRレポートを通じてCSRの取組みを積極的に社内外に発信するとともに、ステークホルダーの意見を経営に適切に反映する枠組みを構築します。



CSRマネジメント

○「安全・安心・快適」に対する取組みについて、マスメディア等を通じ広く広報することにより、多くの方々にご理解いただくとともに、ステークホルダーとの双方向のコミュニケーションを図り、良好な関係を築いていきます。

○阪神高速グループのすべての社員一人ひとりが自発的にお客さまのニーズを発見し、解決に向け行動するよう、CSマインドを醸成します。その上で、お客さまの声の収集、分析等を踏まえたCS向上施策を検討・実施します。

② 経営基盤の強化

- 安定した経営基盤を確立するため、UFC床版等の新技術・新工法の活用や自動収受機の導入拡大等による管理業務の合理化、未利用不動産の有効活用等の取組みを通じ経営の効率化に努めます。
- 地域の施設・団体等とタイアップし、イベント参画や広報協力を行うとともに、観光スポットを紹介するなど、レジャーユースに重点を置いた取組みを実施し、ウェブサイトを活用した広報の充実等による利用促進策を推進します。
- グループ経営による品質の確保・向上やグループ全体の企業価値向上等に向けてPDCAサイクルを確立します。
- 安定した経営基盤の確立とお客さまの信頼に応えるため、強固な情報セキュリティレベルを阪神高速グループ全体で維持・向上していきます。
- コンプライアンス委員会等の社内推進体制を活用し、グループ全体でコンプライアンス意識の浸透・向上を図り、高い企業倫理を確立します。
- 工事による事故を撲滅するために、継続して安全査察による現場確認や指導を実施するとともに、安全に対する意識の向上を図るための研修等を行い、工事安全管理活動のさらなる向上を図ります。

③ 職場環境づくり

項目	数値目標(2019年度)
女性の育児休業取得率	100%の継続
年間総労働時間	2,000時間未満の継続

- 権限・責任の明確化を図りつつ、新たな経営課題や組織横断的課題への迅速・的確な対応、人員構成の変化への対応やノウハウの継承、オープン＆フェアな企業風土への実現といった観点から、組織の整備を推進します。
- 女性の活躍に向けた取組みを推進し、社員が能力を発揮できる職場環境を整備します。
- 仕事と健康で充実した生活の両立をめざし、生産性向上の意識を醸成し、社員のワーク・ライフ・バランスを推進します。
- さらなる業務の効率化や事業継続性を確保するため、先進のICTを検討・導入するとともに、情報の共有・活用やシステム環境の見直し等を実施します。

④ 人材育成

- 阪神高速グループが体となって阪神高速スキル・マインドを継承するため、プロフェッショナル人材の育成強化を図るなど、継続的かつ有効的な人材育成に取り組めます。
- 阪神高速グループの技術力強化のため、道路技術研修施設を整備するとともに、震災資料保管庫を活用した被災経験の伝承活動と併せて、これまで培った技術・ノウハウを伝承し、技術者育成を推進します。
- 今後の事業展開を見据え、技術継承プログラム・資格取得支援制度等を活用し、多様な人材育成を推進します。

数値目標

項目	数値目標(2019年度)
1. 最高の安全と安心を提供する阪神高速	
交通事故件数	300件削減(※1)
2. もっと便利で快適なドライブライフを実現する阪神高速	
企画割引実施日数	1.5倍(60日)(※1)
本線渋滞損失時間	865万台・時／年以下
ジョイントレス実施率	10%以上(※2)
ETC利用率	95%以上
4. お客さまや社会に満足をお届けする多彩なビジネスを展開する阪神高速	
関連事業の売上高(連結)	55億円以上
関連事業の営業利益(連結)	8億円以上
5. 関西の発展に貢献し、地域・社会から愛され信頼される阪神高速	
道路管理に起因するCO ₂ 排出量	3%削減(※1)(※3)
6. 経営基盤を確立し、グループ社員がやりがいを実感できる阪神高速	
お客さま満足度(5段階評価)	3.7点以上
女性の育児休業取得率	100%の継続
年間総労働時間	2,000時間未満の継続

※1 2016年度比

※2 ジョイントレス化対象(100m区間内のジョイント数が5以上ある箇所)全体に対する実施率

※3 道路管理の延長あたり